

令和7年度あきた型学校評価

評価領域	学習指導
------	------

重点目標	教師による子どもの見取りを基に、児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえた学びをつなぐ授業づくりの実践		P
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの研究の成果により、教師の児童生徒の内面を見取る力が向上し、見取りを生かしたチームで取り組む授業づくりの基盤が形成された。 ・児童生徒の学びの応用・一般化や、教科等の視点での学習内容の設定や学習評価について課題がある。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえた学びをつなぐ（学びを応用・一般化する）授業実践 ・教科等の視点からの「何を学ぶか」の整理と、学習評価の視点からの「何ができるようになるか」の明確化 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びをつなぐ」ということについての共通理解 ・「思い」や「願い」の把握と、具体化、可視化、共有化するための学部研究の推進 ・学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善の推進 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・研究全体会での、本校における「学びの積み重ね」と「学びの広がり・活用」についての共通理解 ・各学部での児童生徒の実態に応じた「思い」や「願い」の把握と学部研究会（ふらっとミーティング）での具体化、可視化、共有化 ・学部研究会（ふらっとミーティング）やミニ教育課程検討委員会での学ぶ内容の検討や教科等の視点からの意見交換 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びをつなぐ」ということや研究の方向性について確認できた。 ・小学部は保護者アンケート、中学部は生徒との個別面談と見取り、高等部はキャリアノートを活用して「思い」や「願い」を把握し、学部研究会や授業研究会で授業改善に生かした。 ・ミニ教育課程検討委員会の学部縦割りグループで、年間指導計画を活用し、目標や主に指導する内容について確認や情報交換を行った。 		
自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部での「思い」や「願い」の把握により、児童生徒理解を基にした授業づくりへの意識が高まった。 ・学部研究会や授業研究会を通して、研究テーマに向けたチームでの授業実践、授業改善に取り組む体制を整えることができた。 ・学部研究会、ミニ教育課程検討委員会において、指導内容を明確にしたり、年間や学部内外におけるの学びのつながりを意識したりすることができた。 	C
	<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学びをつなぐ授業づくりでは、児童生徒の意見を聞いて授業に反映させ、取り組んでほしい。 ・学んだことを一般化するということは、学んでいることを違う相手と、違う場面で、など様々な段階がある。何をもちて学びをつないでいるのか、評価を考えてほしい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びをつなぐ」ことや児童生徒の「思い」や「願い」などの研究の中心となる言葉の捉え方について改めて共通理解を図る。 ・学びをつなぐ授業づくりに向け、公開研究会講演講師による研修会を行い、研究の方向性や授業づくりの視点について全職員で理解を深める ・公開研究会を開催し、2年間の研究の成果を広く公開する。 		A

重点目標	交流及び共同学習を計画的、組織的、継続的に実施し、共に学び合う環境を整えるとともに、児童生徒の社会性の伸長を図る。			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は小学部が7名、中学部11名が居住地校交流を実施した。 令和6年度末実施の保護者アンケートによる評価点は、「居住地校交流、交流及び共同学習の充実」が3.2点、「地域の人材を活用した学習の教育効果」が3.1点であり、他の項目よりも低い評価だった。両項目において全校の1割となる9名が「分からない」と回答した。 	P		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 居住地校交流を円滑に実施するための体制や役割分担を明確にするとともに、相手校での障害理解を推進する。 学習の目的、目標を明確にした上で、各学部、学級の学習において、地域での学習や交流を計画的に実施する。 			
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 居住地校交流の前に、心のバリアフリー授業（障害理解授業）や巡回学校展を実施する。 地域での学校展やホームページ、通信での情報提供を行う。 地域の人的・物的資源の利用履歴が分かるマップを活用する。 			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学部の全ての希望者について、居住地校交流を計画した。 全ての学部において、学校間交流や、地域の人的・物的資源を効果的に活用する学習を計画した。 交流校のニーズに応じて心のバリアフリー授業（障害理解授業）を実施した。また交流のない学校でもニーズに応じて実施した。 潟上市の職員や消防署員等と合同防災訓練を実施した。 	D		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度は小学部12名、中学部11名の児童生徒が居住地校交流を希望し、19名が実施した。小学部では1校と学校間交流を実施した。中学部は居住地校交流の発展として、1校と学校間交流を実施した。 男鹿潟上南秋地区と秋田市の高等学校4校と、運動会や学園祭などの全校行事のボランティアや中学部、高等部の学習として実施した。 			
自己評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 居住地校交流について、実施後の児童生徒や保護者、相手校からの感想はとても良好な内容であった。 地域の人的・物的資源を児童生徒の学習目標達成のための方法、手段として有効に活用する取組が見られる。 交流及び共同学習や地域での学習について、活動を進めながら保護者への情報提供を行った。保護者アンケート項目において評価点が上がり、理解が進んだ。 </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> 居住地校交流について、実施後の児童生徒や保護者、相手校からの感想はとても良好な内容であった。 地域の人的・物的資源を児童生徒の学習目標達成のための方法、手段として有効に活用する取組が見られる。 交流及び共同学習や地域での学習について、活動を進めながら保護者への情報提供を行った。保護者アンケート項目において評価点が上がり、理解が進んだ。 	C
A	<ul style="list-style-type: none"> 居住地校交流について、実施後の児童生徒や保護者、相手校からの感想はとても良好な内容であった。 地域の人的・物的資源を児童生徒の学習目標達成のための方法、手段として有効に活用する取組が見られる。 交流及び共同学習や地域での学習について、活動を進めながら保護者への情報提供を行った。保護者アンケート項目において評価点が上がり、理解が進んだ。 			
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自校の活動が外から見えるように様々な努力をしていることは、非常によいことだと思う。 各学部で特徴のある授業が行われ、楽しみながら学習している様子を見て、児童生徒の成長につながると感じた。 （潟上市と連携した防災訓練について）災害がいつ来ても、将来の役に立つので、よい取組だと思う。 </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> 自校の活動が外から見えるように様々な努力をしていることは、非常によいことだと思う。 各学部で特徴のある授業が行われ、楽しみながら学習している様子を見て、児童生徒の成長につながると感じた。 （潟上市と連携した防災訓練について）災害がいつ来ても、将来の役に立つので、よい取組だと思う。 	C
A	<ul style="list-style-type: none"> 自校の活動が外から見えるように様々な努力をしていることは、非常によいことだと思う。 各学部で特徴のある授業が行われ、楽しみながら学習している様子を見て、児童生徒の成長につながると感じた。 （潟上市と連携した防災訓練について）災害がいつ来ても、将来の役に立つので、よい取組だと思う。 			
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 目的、目標や学ぶべき内容を明確にした上で、地域の人的・物的資源を活用する学習を計画的に実施する。 心のバリアフリー授業や巡回学校展、ボランティア講座等を行って地域の理解推進を進め、関わり合う両者にとって実りある効果的な交流活動となるよう、計画段階から確認しながら進めていく。 	A		